

中区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体	
生態系保全啓発事業		中区役所 企画総務課	
事業目的	事業内容	活動指標	/
中区の豊かな自然環境が保有する生態系について周知を行い、その保全に向けての機運を醸成する。	大阪公立大学教授の協力の下、中区在住の子どもとその保護者を対象とした生態系保全啓発イベントを開催する。	参加人数	30人
		アンケート結果 (生き物・生態系保全への関心が向上したか)	100%
①妥当性	②協働の視点	③インパクト	④効率性
◎ 中区内の公園で生態系について区民が専門家から学ぶ機会を提供することで、生態系保全への関心が高まり、区民の行動が変わることが見込まれる。それにより区内の生態系保全の機運が醸成されるため、区が事業を実施する妥当性が高い。	△ 大阪公立大学の教授にイベントの講師を依頼し、イベントの企画を進めた。	○ 中区の生態系保全について区民に啓発するため、中区内の公園でイベントを開催するとともに、参加者を中區外に在住する応募者からも選定した。このことで、地域ごとの生き物の特性について区民だけでなく、他区民にも啓発することができた。	○ 参加者は主に中区ホームページや環境共生課に協力を依頼するなどして募集をしたため、事業費用は主に講師への謝礼金にとどまり、費用対効果の高い事業と言える。
⑤自立発展性	総合評価		
- 身近な場所で生き物を観察することで、区民にとって愛着の持てる事業となった一方で、イベントの周知や参加者募集、会場の設営などは区役所主体で担っている事業であり、自立発展性の検証は相応しくない。	○ 募集定員に対し約3倍の応募があり、生き物観察イベントへの関心の高さが感じられた。参加者のアンケートからも、イベント内容や構成の評判も良く、対象者を親子としたことで、親子で生き物や生態系について話し、考える良い機会となっていた。身近な環境から専門家の知識とともに生態系について学ぶことができ、参加者にとっては印象深いイベントとなっていたことから、事業効果が高いと言える。		
今後の方向性(課題、改善提案等)			
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;"> 拡充 継続 見直し 廃止 </div>	今回の開催は中区の公園という「身近な場所」を条件に、生息している生き物については問わずに企画をしたため、当日に発見された生き物はほとんどが外来種であった。中区の固有種や限られた地域でしか見られない生き物が観察できるイベントにすることで、さらにインパクトのある事業となったと考えられる。また、協働の視点においては、学生ボランティアなどを募ってイベント当日の人員とするなど、さらに区民との協働の部分を増やす余地があった。運営側の人数を確保することで、参加者の人数を増やすこともできたため、より効果的なイベントとなるよう検討していく。		